

# 活動プログラム

団体名 ( NPO 法人 f. saloon )

## 1. 事業内容

<input type="checkbox"/> 子どもたちの生活習慣や学習習慣の確立に関する活動
<input type="checkbox"/> 不登校（傾向）児童生徒対象の体験活動
<input checked="" type="checkbox"/> 自然体験、生活体験、社会体験に関する活動
<input type="checkbox"/> 家庭教育支援に関する活動

※複数選択可

## 2. 活動プログラム名

「	きらり★ じぶん はじける じかん こども園・保育園と連携した自然遊び+αプログラム	」
---	---	---

## 3. 目標 (ねらい)

◎のびのびと＝自然の中で  
◎自由に＝やりたいことを選び取れる設定で  
◎自分らしく＝感覚・感情を出し切れるように  
備前市内各地域、各園の状況に合わせてプログラムをカスタマイズする

## 4. 活動計画 ※対象者の活動及び活動実施に向けた研修会等を記載してください。

回	★目標 ・活動内容・対象・参加者人数・スタッフ人数・会場等	◆目指す参加者の姿 (評価方法)
第1回	★各園の周辺自然環境の調査、教育課程・行事予定等との調整の後、プログラム提案 ・各園から子どもたちが徒歩で移動できる距離で自然遊びに適した場所を選定し、所有者との交渉・調整等を行い、その場所での体験プログラムを各園に提案する。 ・園の先生方が安心して当日を迎えられるよう日案の形式でプログラム内容やスケジュール、準備について提示し協議する。	◆プログラム内容やスケジュール、準備について、通常の保育の延長線上で無理なく取り組めば良いことを先生方が理解している。
第2回	★園と協力してプログラム実施 ・おおむね5歳児クラスの児童全員を対象に実施する。 ・当法人担当者と専門家おおむね4人のチームで園の先生方と一緒に進行する。 【伊部認定こども園のプログラム案】 ・実施日：11月16日（木） 雨天予備日17日（金） ・実施場所：園庭、不老川沿い緑地、榎原山登山口 ・内容：園から不老川沿い緑地を歩き茅原山登山口まで行く中で五感を活用して自然物を発見する「フィールド	◆「保育所保育指針・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿※2」の中の「自然との関わり・生命尊重」「豊かな感性と表現」の項、また「同・3歳児以上の保育に関するねらい及び内容※3」の中の「環境」のねらいで示される

	<p>ビンゴ※1」を実施する。道中で「燃えると思うもの」をひとつ持ち帰り、園庭に戻り自分たちでたき火を起こす。園で収穫が完了していれば焼き芋を、そうでなければ焼きマシュマロを作って食べながら、秋の味覚と音楽を楽しむ集いで締めくくる。</p>	<p>具体的な姿が見られる。  (評価方法：アンケート)  ・当日の子どもの感想を保護者がヒアリングする形でアンケートをとる。親子で体験を共有する機会にする。  ・当日の子どもたちの様子について、普段との変化を感じたかどうか先生方に振り返ってもらい、アンケートをとる。</p>
<p>第3回</p>	<p>★他園でも周辺自然環境を活かしたプログラムを立案して実施する。  【実施予定園】  ・西鶴山保育園…11月  ・三石認定こども園…11月  他、伊里認定こども園、香登認定こども園&amp;大内保育園(合同)、片上認定こども園と調整予定</p>	
<p>※1…フィールドビンゴ：「見る・聴く・触る・嗅ぐ・(食べる)」ことで身近にある自然物を再発見するために行う。正解や勝敗ではなくその子なりの発見を促す。  ※2…保育所保育指針第1章4(2)幼児期の終わりまでに育ってほしい姿より  「自然との関わり・生命尊重」  自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探求心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にしたい気持ちをもって関わるようになる。  「豊かな感性と表現」  心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。  ※3…保育所保育指針第2章3(2)ウ環境(ア)ねらいより  ①身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。  ②身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。</p>		

## 5. 展 開

回 時間	内 容	準備物	留意点	◆目指す参加者の姿 (評価方法)
【第1回】 9:00	【導 入】 園を出発		・道路を歩く際は安全に留意し先生の誘導で整列する	◆「保育所保育指針・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿※2」の中の「自然との関わり・生命尊重」「豊かな感性と表現」の項、また「同・3歳児以上の保育に関するねらい及び内容※3」の中の「環境」のねらいで示される具体的な姿が見られる。
9:10	不老川沿い緑地でオリエンテーション	・フィールドビンゴ用紙		
9:15	【活 動】 自由に歩きながらフィールドビンゴを楽しむ	・ビンゴ用シール ・救急セット ・カメラ ・バケツ・虫かご	・先頭と最後尾の大人の間であれば自由に歩いてよい ・フィールドビンゴはあくまでも五感を使うためのヒントであって、完遂を目標としない ・準備したアクティビティを脱して環境を楽しむ姿があればむしろ関わり広げる ・大人がサポートしながらやってみたい子はマッチを擦って火をつける（火がつかなくてもよい、挑戦が大切）	
10:15	榎原山登山口に到着 木の実拾い等自由に過ごす	・たき火台 ・消火用水		（評価方法：アンケート） ・当日の子どもの感想を保護者がヒアリングする形でアンケートをとる。親子で体験を共有する機会にする。 ・当日の子どもたちの様子について、普段との変化を感じたかどうか先生方に振り返ってもらい、ア
10:30	榎原山登山口を出発 園庭に到着 マッチで火を起こし 火起こしに参加しない子は拾ったものを図鑑で調べたり楽器遊びをはじめたりする	・マッチ ・新聞紙 ・食べて楽しむもの（焼き芋なら事前に準備） ・図鑑 ・楽器		
11:15	【振り返り】 火が起きたら集合し自分の発見を発表 たき火の周りで音楽遊び 焼き芋が焼けたら食べる（芋がない場合はマシュマロ等） 終了 ※2クラス同日開催の場合は各内容を30分の時差を作って		◎活動時間全体に準備されたアクティビティはあるが、それをこなすことが目的ではないことに留意する。目標とするのは、一人一人が「自然」という大らかな環境の存在に気付く、臆することなく身をゆだね、その中で自分らしく過ごすことを獲得するプロ	

	実施する（開始が 9：30、終了尾が 11：45）		セスである。	ンケートをとる。
--	---------------------------------	--	--------	----------